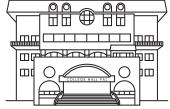


大学広報誌
[パル]



ICL

place amie liberte

2019 SPRING Issue.536

特集 「学長 × 理事長 対談」

Campus Archive

Way to go!

高大連携NEWS

University & College News

Hokusho People



北翔大学・北翔大学短期大学部 学長

山谷 敬三郎

Keizaburo Yamaya

学校法人北翔大学 理事長

青木 次郎

Jiro Aoki



やまやけいざぶろう／1952年、遠江町出身。
1976年、北海道教育大学・教育学部を卒業。
中学校教諭、北海道教育委員会を経て、
1997年に本学短期大学部・初等教育学科に
助教授として着任。2010年、東北大大学院博士課程後期（教育情報学）を修了。日
本教育心理学会代議員、日本応用教育心理
学会理事、日本学校心理学会理事、北海道
教育相談スーパーバイザーなど役職多数。

建学の精神

【今日的定義】 常に変化する社会に向かって真摯にかつ創造的に対応できる人材の輩出を目指し、
より高い専門性と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成

【建学の精神】 女性の社会的地域の向上を目指し、女性に相応しい職業的技能と幅広い教養を身
につけた、自立できる社会人の育成

1939年（昭和14年）、本学園の母体となった北海ドレスメーカー女学園創立時に定められたものです。この建学の精神は、自立の手段が限られ、狭い社会に閉じこめられてきた女性に職業的技能と教養を身につけることを目指すという、當時としては、「時代を先取りした精神」をもっていました。その後、社会は大きく変わり、今日、高等教育機関には、男女を問わず一人ひとりが人間として幅広い教養を身につけ、自立的な社会人を育成していくことが求められています。こうした経緯を踏まえ、「建学の精神」のもと本校を今日的定義に敷衍し、表記のとおり定義します

教育理念

愛と和と英知

学校法人浅井学園は、人間関係の基本として大切な「愛」と「和」を教育理念に掲げて70年の歴史を刻んできました。近年、大学としてさらに「英知」を加え、確かな知識に裏打ちされた教育の拠点を目指しています。

愛／人間の存在とその価値を認め尊重して行きたいと願う温かな心情、誠実、真心。地球規模での人類の発展と平和を願い、共生社会に生きる人間の育成。

和／互いの違いを理解したうえで取組ばれる平和を希求する心、友情、協調性。他者への深い理解と柔軟な精神の育成。

英知／深遠な道理を探求し、深い知性、実践的な知恵。眞の実在や心理を捉えることのできる認識力・実践力の育成。

今年度より新たな学校法人としてスタートする北翔大学。

山谷学長と青木理事長が、本学の未来について語ります。



されて以来、大いに活用されてきました。

青木 スポルでは地域住民を対象にしたスポーツクラブ「スポーツクラブ」も運営していますね。子ども向けの体操教室から大人向けの健康運動まで、さまざまなプログラムがあり、教員や学生は各プログラムをサポートしながら運動能力向上などに関する研究や学びを進めることができます。また、地域スポーツクラブの運営のあり方自体も研究テーマになっていました。

山谷 保育・教育の分野でも、保育園や小学校などと連携して研究と学生の教育を結びつけており、これも他大学よりも一歩先に進んでいる部分だと思います。このような取り組みをさらに推し進めるべく、将来構想検討委員会を中心として計画を立てています。

青木 これらすべての根本にあるのは「学生第一」という考え方ですね。一人ひとりの個性を伸ばし、就職先や地域社会が求めることに対して自発的に取り組める

大学づくりを
教職協働で
さらに「学生第一」の
大学づくりを



——山谷学長は昨年2月に就任されました。それから1年間の取り組みや手応えについてお聞かせください。

山谷 目標に向けて意欲的に取り組む学生たちを、教職員の皆さんも熱意を持って応援してほしいとお願いしていました。そのためのキーワードとして「寄り添う」という言葉を大切にしています。これはやさしさという意味だけではなく、確実に力をつけて社会へ羽ばたいてもらうために、時にはきびしく、きちんと学生と向かいあってほしいということです。

手応えとしては、この1年間というよりも過去からの積み重ねの成果ではありますが、昨年度の教員採用試験で過去最多の195名が合格しました。このほか公務員や国家資格など、それぞれの学生の目標に対して、教職員が非常に熱心に取り組んでくれていると感じます。また、ちょうど私の就任当時は平昌（ピョンチャン）五輪の開催中で、本学の学生、卒業生、教員



学生に寄り添い、
その意欲にしつかり
応えたい — 山谷

が、選手やコーチ、メディカルスタッフとして活躍し、学生たちに対しての勇気づけになったと思います。

青木 私は昨年1年間、本学関係者が掲載された新聞記事を個人的に数えてきました。学生が68件、教員が58件、卒業生が49件、教員OBが2件、合わせて177件でした。2日に1回は本学関係者が載っている計算で、そのうち6割はスポーツ関係。このようなデータも本学が活躍しているパロメーターになります。山谷学長はスポーツ選手のようにフットワークが軽く、さっそく将来構想委員会を立ち上げて本学の改革にも着手されており、大変頼もしく感じています。

山谷 ありがとうございます。将来構想検討委員会は、副学長、学科長、各セクションの課長で構成し、その名のとおり、将来的な本学の発展に向けて活発に議論しているところです。

——将来に向けた大きな変化として、今年度から学校法人が変更されました。

青木 そうですね。本学の歴史は1938年、故浅井淑子先生によって創設された北海ドレスメーカー女学園

（現・北海道ドレスメーカー学院、以下ドレメ）に端を発しています。本学の前身はドレメを運営する学校法人浅井学園が1963年に開学した北海道女子短期大学であり、それから昨年度まで、同法人の一員としてドレメとともに歩んでまいりました。そのなかで時代の変化は加速度を増し、とくにファッションの世界に関わるドレメでは、トレンドに合わせるためにカリキュラムの見直しなどが頻繁に求められています。専門学校は北海道の管轄、大学は文部科学省の管轄ということもあり、ドレメのスピード感を増すためには別法人にすべきだと結論に至りました。そこでドレメは今年度から2つのこども園と調理師専門学校を運営する姉妹法人北海道浅井学園の一員となり、本学はこれまでの法人に残ることになりました。そのうえ前者の名称を学校法人浅井学園、後者を学校法人北翔大学とそれ変更することいたしました。もちろん、教育面などにおけるこれまでの協力体制は今後も継続し、お互いの発展を支え合って参ります。

——新たなスタートの1年となります。北翔大学・北翔大学短期大学部の現在位置をどのように捉えていらっしゃいますか。

山谷 大学にはスポーツ教育学科、健康福祉学科、教育学科、芸術学科、心理カウンセリング学科という特徴的な5学科があります。また、短期大学部にはライフケアデザイン学科とこども学科の2学科があり、いずれも開学初期から続く伝統があります。7学科がそれぞれの特徴を活かし、さらなる強みにしていくことが大切です。また、本学は伝統的に地域とのつながりが非常に強い大学だと感じています。地域に支えられ、協力しあい、ともに成長していくといいます。

青木 男女平等が叫ばれて久しいですが、女性の社会進出というドレメの開学の精神を引き継ぐ本学は、女子短大だった時代から、道内私学のなかでも働く女性を社会に送り出す先駆的な存在でした。これからも地域に貢献できる人材を数多く送り出していかなければなりませんね。それが本学の原点なのですから。

加えて、近年は教員の研究面もかなり充実してきました。これは、あらゆる大学が今後生き残るために必須の要素だと言えるでしょう。とくに本学では、基礎研究というよりも、学生の教育とリンクし、地域に役立つような実学的な研究が盛んです。

山谷 そうですね。本学には北方圏生涯スポーツ研究センター（スポル）があり、スポーツ系の研究と教育を結びつける活動が行われています。また、札幌円山キャンパスの北方圏学術情報センターは、地域の方々に本学の研究成果を還元すること目的に建造

人材を育成したい。それこそが山谷学長の言う「寄り添う」ということなんだと思います。

——最後に今後に向けた抱負をお願いします。

山谷 18歳人口の減少をはじめ、大学・短期大学は多くの課題に直面していると思います。その一つひとつに背を向けることなく、何事にも前向きに、積極的に、夢と希望をもって取り組んでいかなければなりません。最初の話に戻ますが、学生も教職員も意欲あふれる大学こそが一流的の大学だと思っていますので、そこに向かって全員で歩んでいきます。

青木 そうですね。学長は教育、理事長は経営というような縦割りの発想では、これからの難局を乗り越えるのは難しいと思います。それは教員と職員の関係も同じ。それぞれの領域をクロスオーバーさせながら、「教職協働」で本学の発展に尽力していかなければなりません。学長、理事長、教員、職員の4輪駆動で走り続けましょう。保護者や卒業生の皆さんには、本学についてのご要望、ご質問などをお寄せいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

III Sports

奈井江町との地域連携事業 子どもの運動教室「キッズピクス」

平成31年1月9日に奈井江町公民館で、運動教室を実施しました。この事業は、小児期からの生活習慣病予防の一環として、小学生を対象にボールゲーム・リレー・ニュースポーツ等多様なメニューを通じて、体を動かすことの楽しさや大切さを体验してもらうことを目的としています。活動量の落ちる冬季に「キッズピクス」として実施され、奈井江町健康ふれあい課からの要請で、平成26年度から毎年、そのうちの1回分を生涯スポーツ学部スポーツ教育学科増山ゼミ3年生が企画・運営しています。

今年度は小学1年生から5年生38人と大学生6人が参加しました。ポートボールやドッジボールなど

の球技では、1、2年生は始めルールに戸惑いも見られましたが、次第に動きが積極的になり、「ドッジボールが怖かったけど慣れた」という感想もありました。子どもたちからは「体を動かして気持ちよかったです」「すごくいい運動になった」「いろんな人に教えてもらって楽しかった」「来年もやりたい」、更に「物足りなかった（もっと運動したかった）」「運動を増やしてほしい」という感想もあり、まだまだ元気がありある子どももいたようです。職員の方から指導のアドバイスもいただき、学生は指導力を磨く貴重な体験になりました。来年はさらに楽しく満足いくプログラムを開発できるようにしたいものです。



III Sports

北翔大学公開講座 「貯筋のすすめ」が開催

平成30年10月20日に、本学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の川西正志教授による「貯筋のすすめ～みんなで伸ばそう健康寿命を使えばなくなるお金の貯金使って貯めよう筋肉貯筋」の公開講座が開催されました。貯筋の運動とは何か、高齢者の筋力トレーニングの意義など、研究成果を交えながらわかりやすい講義の後、実際に椅子1つで実践可能な「貯筋運動」の実技を体験。参加の方々も大変満足した様子でした。



III International

国際交流講演会 「極限の彼方へ～なぜ、ひとり、北極をめざすのか～」が開催

平成30年12月7日に、極地冒険家荻田泰永氏をお招きし、「極限の彼方へ～なぜ、ひとり、北極をめざすのか～」をテーマに講演会が開催されました。講演では自らが北極・南極を目指すに至った経緯やその為の行動力、冒険中の危険回避等への判断力、また、これまでの冒險活動が現在の冒險

や日常にどのように活かされているかなど、普段の生活では経験・体験することができない貴重な内容のお話をいただきました。講演終了後には、荻田さんに質問をしたり握手を求める学生もあり、これから的学生生活や人生を突き進む為のヒントを考える貴重な講演会となりました。



III Report

今年も「動作分析実習セミナー」 が開催されました

平成30年11月23日～25日の3日間で、恒例行事の動作分析実習セミナーが開催されました。トレーナーや運動指導者、理学療法士、義肢装具士など多彩なメンバーが参加し、歩きはじめや義足歩行、ボスチュアウォーキング、椅子からの立ち上がりの動作課題をグループワークで分析し、最終日には発表会を行いました。義足体験やボスチュアウォーキング・ミニレッスンなどのイベントを行い、大変盛り上がりました。道内外から18名が参加いたしました。3日間、みっちりバイオメカニクス（運動力学）を学び、充実したセミナーとなりました。



III Award

生涯スポーツ学研究科の院生・修了生・教員が国際学会で発表・表彰されました！

平成30年10月24日～25日に韓国「Korea National Sport University」で開催された「第3回 Asia Pacific Conference on Coaching Science（第3回 アジア太平洋コーチング科学学会）」において、大学院生涯スポーツ学研究科修士課程3名、研究生2名、修了生・教員などが研究発表を行いました。本学会は、アジアにおけるコーチングに関する学会であり、アジア各国から多くの研究関係者が集まりました。各種発表のほかにキャンバスツアー・パネルディスカッションなどもあり、大変充実した学会となりました。国際学会ということで大学院生に緊張の色も見られましたが、それぞれがこれまでの研究の成果を堂々と発表しました。「Outstanding Researcher Award（優秀研究者賞）」として、修了生の山内夕佳里さん（ポスター）、渡部峻さん（ポスター）、竹田唯史教授（口頭発表）が表彰されました。



(写真下) 左／山内夕佳里さん（生涯スポーツ学研究科修了生）、中央／渡部峻さん（スポーツ教育学科講師）、右／竹田唯史教授（スポーツ教育学科教授・生涯スポーツ学部長）

III Report

「ふるさと江別塾」を開催しました

平成30年10月13日、本学でふるさと江別塾を開催しました。ふるさと江別塾は、市民の皆様の高い知的欲求に応えるべく、充実した学習機会を提供する場として、江別市と市内4大学の連携協力により実施されています。今年度は本学が初回ということで、開始に先立ち開講式が行われ、江別市教育委員会の月田健二教育長、本学の佐々木浩子副学長から主催者挨拶がありました。講演は、教育文化学部心理カウンセリング学科 飯田昭人准教授が担当しました。講演2では「子どもの貧困を考える～貧困は社会の問題～」をテーマに、ワークなども交えながら、子どもの貧困の現状と課題について受講者と共に考えてみました。和やかな雰囲気で講義を終了いたしました。



III Sports

えべつ未来づくり 学生コンペティション大賞受賞！

平成31年2月13日、第3回えべつ未来づくり学生コンペティションが開催されました。今年は、4大学から10組のエントリーがあり、本学からは、パリアフリー・ユニバーサルデザイン研究会と学生FD団体北翔アンビエントの2組が出場し、パリアフリー・ユニバーサルデザイン研究会（大学院生涯学習研究科1年 永野晴基さん）の「みんながつかう“えべマップ”」の提案が、見事大賞に輝きました。



市内公共施設のパリアフリー設備情報について、「えべマップ」の構築と活用により、地図と連動した情報提供を行い、市民が安心して利用できるようにする提案。

WAY TO GO!

クラブ・サークル・学生たちの活躍

CLUB, CIRCLE AND OTHER ACTIVITIES

女子バレー部

「第45回原崎杯 北海道大学男・女バレー ボールリーグ秋季大会」優勝！



平成30年10月13日に開幕し、約1ヶ月に及ぶ秋季リーグ戦が終了しました。帯広大会から始まり、本学ホームゲームを経て、旭川大会、順位決定リーグと、各節たくさんの応援を頂き、本当にありがとうございました。女子は12年ぶり26回目の優勝を失セツゼロの完全優勝で飾ることが出来ました。キャブテンや3年生を中心に、この1年は本当に頑張りました。春季リーグ戦では2位に甘んじましたが、選手権の

優勝、秋季リーグの制覇に繋げました。とくに全勝だけでなく失セツゼロの完全優勝は圧巻でありました。選手スタッフ全員の頑張りと成長を誇りに思います。誉め讃えたいと思います。

【女子優勝】北翔大学（8勝）12年ぶり26回目
【第2位】東海大学（6勝2敗）
【第3位】北海道教育大学 岩見沢校（3勝5敗）

「天皇杯・皇后杯 全日本バレー ボール選手権大会」出場

女子バレー部は、平成30年12月14日東京都調布市、武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された天皇杯皇后杯ファイナルラウンドに出場しました。結果は1回戦敗退となりましたが、来シーズンへ向けて貴重な経験となりました。

エアロビック部

全日本総合エアロビック 選手権大会準優勝！

平成30年11月4日に東京都大田区総合体育館において「スズキジャパンカップ2018 第35回全日本総合エアロビック選手権大会」全国大会が開催されました。本学からは、エアロビック部の枝 亮さん（今年3月に大学院生涯スポーツ学研究科を修了）が北海道地区代表として出場し、シニア1男子シングル部門において準優勝となりました。



トレーナー部

「命を守る 救急搬送法講習会」実施

平成30年10月15日に本学学生団体を対象とした救急搬送法講習会を本学（スポル）1階多目的ホールで実施しました。講習会では本学トレーナー部（赤十字救急法救命員認定資格者）学生が講師となり、「命を守る」をテーマに実際に想定される緊張感を伝えながら実践形式で指導が行われ、体育系・

文化系の合計33団体が参加し、搬送法に関するプロセス（確認、計画、行動）を学んだ後、複数人ひと組で行う搬送法、一人で行う搬送法のほか、施設の階段や障害物を想定した担架・バックボードを使った搬送法について学びました。



ニュース【国際交流】

学生が「北海道青年派遣事業」で韓国へ



平成30年11月21日～11月30日の10日間、北海道（総合政策部）、北海道国際交流・協力総合センターが企画したJENESYS 2018北海道青年派遣「生涯スポーツで街を元気に！地域づくり魅力発信事業」において本学学生20名、教員3名が韓国に派遣されました。派遣事業は、平成28年8月に実施された韓国慶尚南道交流事業北海道代表団に本学ミニバレーサークルが同行訪問後、

韓国にミニバレー協会が発足したことを受け推薦され派遣となりました。北海道の魅力についてのレポート審査、5回の研修・オリエンテーションをクリアした学生は派遣期間中、韓国での活動を発信しながら韓国学生とのミニバレー交流やソウル市庁・慶尚南道庁を表敬訪問、ソウル大学・慶南大学訪問、民間へのホームステイ交流などを実施しました。

ニュース【ワークショップ】

学生が「チョークで インテリアボードをつくろう！」の 講師を務めました

平成30年11月23日、江別葛谷書店でワークショップ「チョークでインテリアボードをつくろう！」が開催されました。講師を務めたのは大学生チョークアーティストとして活躍する石川 弥一さん（芸術学科4年）。参加者にインテリアボードの作り方を丁寧に教えていた石川さん。子供から大人まで手軽に楽しめるチョークアートの魅力を伝え、完成した作品をうれしそうに持ち帰る子供の姿が印象的でした。



バドミントン部

「第65回北海道学生バドミントン会長杯争奪戦選手権大会」大会結果報告！

「第65回北海道学生バドミントン会長杯争奪戦選手権大会」が平成30年11月8日～11月11日に深川市総合体育館で開催されました。本学バドミントン部の主な成績をご報告いたします！



【女子シングルス】

【優勝】酒井 虹穂（スポーツ教育学科3年）
【3位】西村 ゆり香（教育学科3年）

【女子ダブルス】

【優勝】内田 彩佳（健康福祉学科4年）・
増永 優香（ライフデザイン学科2年）
【準優勝】向井 仁那（教育学科2年）・
矢野 あすか（スポーツ教育学科2年）

【男子シングルス】

【3位】片桐 悠輔（スポーツ教育学科4年）

【男子シングルス】Bグループ

【優勝】佐藤 斗真（スポーツ教育学科3年）
【準優勝】三反崎 裕太（スポーツ教育学科2年）
【3位】大場 雅人（スポーツ教育学科2年）

【男子ダブルス】

【優勝】遠藤 真彦（スポーツ教育学科3年）・
深田 崇人（スポーツ教育学科2年）

【準優勝】岩下 直樹（スポーツ教育学科4年）・ 片桐 悠輔（スポーツ教育学科4年）

【3位】高木 健心（スポーツ教育学科3年）・
高橋 大輝（スポーツ教育学科2年）



左／女子シングルス優勝 酒井 虹穂（スポーツ教育学科3年）、中央／女子ダブルス優勝 内田 彩佳（健康福祉学科4年）・増永 優香（ライフデザイン学科2年）、右／男子ダブルス優勝 遠藤 真彦（スポーツ教育学科3年）・深田 崇人（スポーツ教育学科2年）

UNIVERSITY & COLLEGE NEWS

学部・学科ニュース

教育文化学部

教育学科 Department of Education

春休みの学び「厚真町でボランティア活動」

教育学科の学生は春休みも活発な活動をしています。新4年生は教員採用検査対策講座や就職対策講座を受講しています。養護教諭コース新3年生は養護実習に向けた集中講義、幼児教育コース新4年生は保育実習、音楽コースは演奏会等に取り組んでいます。

今春初めての取り組みとして、初等教育コースでは厚真町の軽舞遺跡調査整理事務所で、胆振東部地震で散乱した収蔵品を整理するボランティア活動に汗を流した学生がいます。2月13、14日の2日間でしたが、学芸員から被災当時の説明を受け、破損状況を確認し、散乱した収蔵展示資料を棚に並べ直す作業を行いました。参加学生からは、北海道を知る機会、被災地の経過を知る機会となり、将来学校教育現場に立つ上で幅を広げる有益な学びであったとの声がありました。学生にとって貴重な意義ある活動となりました。

宿泊研修で「園芸・福祉体験」

心理カウンセリング学科1年生の宿泊研修が平成31年2月13日～14日に実施されました。初日は高大連携の一環として北海道留寿都高等学校での体験授業に参加し、園芸体験のハーバリウム作りと福祉体験である手浴を通して学生同士のみならず高校生との交流を通して良い刺激を与え合いました。夜はグループワークにより相互のコミュニケーションをより密にすることができます。2日目の蕎麦打ち体験では生活と心の豊かさとの関わりについて考えながら、学生同士の親睦をさらに深めることができました。今後の学びに生かしてもらえたと思います。

School of Education and culture

教育文化学部

芸術学科 Department of Art and Design

「芸術学科卒業制作展」を開催!

今年で通算16回目となる芸術学科卒業制作展を平成31年2月5日～11日、札幌市円山の北翔大学北方圏学術情報センターで開催しました。今年の作品展のテーマは、「Unknown (アンノーン)」。「未知の可能性を秘めた」学生たちの思いが込められています。美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の各分野を学んできた学生達の個性的な作品が展示されました。絵画・映像・インスタレーション・アクセサリー・模型・建築パース・ファッション作品、そしてステージ発表や演劇公演の記録映像や写真など、さまざまな展示物が1階と3階のギャラリーに並び、来場者から好評な意見が数多く寄せられました。

宿泊研修で「園芸・福祉体験」

心理カウンセリング学科1年生の宿泊研修が平成31年2月13日～14日に実施されました。初日は高大連携の一環として北海道留寿都高等学校での体験授業に参加し、園芸体験のハーバリウム作りと福祉体験である手浴を通して学生同士のみならず高校生との交流を通して良い刺激を与え合いました。夜はグループワークにより相互のコミュニケーションをより密にすることができます。2日目の蕎麦打ち体験では生活と心の豊かさとの関わりについて考えながら、学生同士の親睦をさらに深めることができました。今後の学びに生かしてもらえたと思います。

生涯スポーツ学部

スポーツ教育学科 Department of Sport Education

健康福祉学科 Department of Health and Welfare Science

「健やかな社会を目指して」卒業研究発表会終了!

健康福祉学科では、平成31年2月1日に卒業研究発表会を行いました。今年は、高齢男性の社会参加に関する研究や、子どもの体験学習に関する研究が口頭発表されました。いずれの研究も、その人らしく健やかに暮らす社会にむけた課題に取り組んでいました。

参加した後輩学生からは、自分の意見を投げかけたり、今後の卒業研究の参考にしようとする質問が上がっていました。これからの学びを深めるヒントを得られたのではないでしょうか。発表者のみなさん、卒業研究で培った力はこの先ますます求められると思います。卒業後の活躍をお祈りします。

短期大学部

ライフデザイン学科 Department of Life Design Studies

「活きたビジネス教育」で人財育成

ライフデザイン学科キャリアデザインコースは、入学当初から各科目特性を活かしたビジネスプログラムを組み、実践教育による人財育成に取り組んでいます。例えば、入学当初からビジネスの考え方の基本を学び、ビジネスモデルの構築について発展的に学び、そして学内ショップの一角を活用して、地域名産品の仕入れから販売、商品管理・財務管理まで一連のビジネスの流れを通じた実践教育に取り組んでいます。また、科目プロジェクトワークでは、「100日プラン」に取り組んでいます。これは、少し頑張って100日間で達成できる課題を個々に設定し、自己管理のもと実行し、最終講義にて成果発表を行うプログラムです。100日の達成感を味わうことは、今後の学生の自信にもつながって参ります。こうした学びを通じて、ライフデザイン学科は、学生が社会人基礎力を身につけ、自らの将来設計を考え行動する自立した人財育成を目指しています。

こども学科 Department of Childhood Studies

「卒業生を送る会」～振り返る思い、引き継ぐ決意

こども学科では、平成31年1月22日に「卒業生を送る会」を行いました。この会は、1年生A組からF組までの6クラスそれぞれが、卒業生のために企画を練り、練習を重ねて発表する会です。器楽、ミュージカル、ダンス&カッブス、劇、ダンス&手話ソング、またミュージカルとバラエティーに富んだ出し物と、一人一人の熱演で会場が引きつけられ、一つになってきました。

卒業生も去年この会を行って卒業生を見送りました。それから多くの学びと、教育実習、保育実習、介護等体験を経て、社会に出ようとしています。最後に「3月9日」を歌いながら、卒業生にはこの2年間を振り返る思いが、1年生には各学級が力を結集した手応えと引き継ぐ決意があったのではないでしょうか。

School of Lifelong Sport

Hokusho College

生涯スポーツ学部

健康福祉学科 Department of Health and Welfare Science

「健やかな社会を目指して」卒業研究発表会終了!

健康福祉学科では、平成31年2月1日に卒業研究発表会を行いました。今年は、高齢男性の社会参加に関する研究や、子どもの体験学習に関する研究が口頭発表されました。いずれの研究も、その人らしく健やかに暮らす社会にむけた課題に取り組んでいました。

参加した後輩学生からは、自分の意見を投げかけたり、今後の卒業研究の参考にしようとする質問が上がっていました。これからの学びを深めるヒントを得られたのではないでしょうか。発表者のみなさん、卒業研究で培った力はこの先ますます求められると思います。卒業後の活躍をお祈りします。

短期大学部

ライフデザイン学科 Department of Life Design Studies

「活きたビジネス教育」で人財育成

ライフデザイン学科キャリアデザインコースは、入学当初から各科目特性を活かしたビジネスプログラムを組み、実践教育による人財育成に取り組んでいます。例えば、入学当初からビジネスの考え方の基本を学び、ビジネスモデルの構築について発展的に学び、そして学内ショップの一角を活用して、地域名産品の仕入れから販売、商品管理・財務管理まで一連のビジネスの流れを通じた実践教育に取り組んでいます。また、科目プロジェクトワークでは、「100日プラン」に取り組んでいます。これは、少し頑張って100日間で達成できる課題を個々に設定し、自己管理のもと実行し、最終講義にて成果発表を行うプログラムです。100日の達成感を味わうことは、今後の学生の自信にもつながって参ります。こうした学びを通じて、ライフデザイン学科は、学生が社会人基礎力を身につけ、自らの将来設計を考え行動する自立した人財育成を目指しています。

こども学科 Department of Childhood Studies

「卒業生を送る会」～振り返る思い、引き継ぐ決意

こども学科では、平成31年1月22日に「卒業生を送る会」を行いました。この会は、1年生A組からF組までの6クラスそれぞれが、卒業生のために企画を練り、練習を重ねて発表する会です。器楽、ミュージカル、ダンス&カッブス、劇、ダンス&手話ソング、またミュージカルとバラエティーに富んだ出し物と、一人一人の熱演で会場が引きつけられ、一つになってきました。

卒業生も去年この会を行って卒業生を見送りました。それから多くの学びと、教育実習、保育実習、介護等体験を経て、社会に出ようとしています。最後に「3月9日」を歌いながら、卒業生にはこの2年間を振り返る思いが、1年生には各学級が力を結集した手応えと引き継ぐ決意があったのではないでしょうか。

高大連携

北海道留寿都高等学校の生徒が来学しました

平成30年11月8日、北海道留寿都高等学校の農業福祉コースの生徒さん10名が来学されました。引率教員2名は、本学の卒業生です。大学の施設設備の見学を通して、心理カウンセリング援助、施設利用者支援の実態を知ることで、今後の授業や実習への意欲向上につなげることを目的に、毎年実施されている高大連携事業です。高校生の皆さんには、熱心にメモを取りながら、各施設の説明に耳を傾けていました。



岩見沢緑陵高等学校の生徒が来学しました

平成30年12月7日、北海道岩見沢緑陵高等学校、普通科スポーツ総合コース1年生40名と、引率教員2名が来学されました。スポーツに関する興味・関心を高め、広く高い知識を学ぶため、ということで、スポーツ教育学科 上田知行教授の「パフォーマンスを高めるトレーニング（ストレッチ編）」を受講されました。自分の体を部位ごとに確認しながら、チェックシートに記入し、これからもスポーツを続けるために自分に必要な事は何かを考える講義でした。高校生にとっては長い80分もあつとい間の楽しい時間のようでした。

昼食をはさんだ後は元気に挨拶してくれて、6時間目の授業に向けて、雪の降る中を岩見沢

へ帰られました。今日学んだ、「怪我をしない体づくり」をされて、スポーツを楽しんでもらえたら幸いです。



旭川龍谷高等学校の生徒が来学しました

平成30年11月1日、旭川龍谷高等学校の特進Aコース1年生29名と引率教員3名が来学されました。この日は3グループに分かれて講義を受講。スポーツ教育学科グループでは1年生の講義を大学生と一緒に受講。健康福祉学科グループでは介護の基本を模擬授業形式で学び、こども学科グループでは短大生と一緒に1年生の幼児の言葉の発達について学んでもらいました。

受講後は、学食体験や本学在学生の案内で学内を見学しました。



高大連携協定校との情報交換会について

平成31年2月22日、高大連携協定を結んでいる高校との「情報交換会」が本学で開催されました。高校からは、今年度の各々の連携活動状況の報告が行われました。「初めて卒業生が出て、北翔大学へも進学しました」という嬉しい声や、「大学へ行ったら一方通行の授業を受けなければならないと思っていた生徒達が、対話のある楽しい時間に驚いて帰ってきた」という報告もありました。

部活動指導に関しては、専門外の競技を指導する先生方の切実な悩みに応える教員研修も行われました。喜びの声の他様々な指導上の悩みも抱え、教員研修を受けたいという希望も寄せられました。協定校の課題・期待に寄り添い、お力になりたいという思いを新たにしました。本学からは、各学部学科からその教育の特徴や現況について説明を行いました。春休みでも学内外で忙しく活躍している学生達の充実した活動の様子や教員採用検査の好調な合格者数も報告しました。

介護福祉士や精神保健福祉士、社会福祉士等の合格率も全国平均を大きく上回ったことや心理の分野に新しい国家資格が誕生したことをお伝えしました。今年も協定校からの本学への高まる期待を痛感し、感謝と責任の重さを感じる有意義な情報交換会となりました。

今回参加校

月形高校
北見商科高等専修学校
恵庭南高校
置戸高校
留寿都高校
旭川龍谷高校
札幌龍谷学園高校
砂川高校
室蘭東翔高校
岩見沢緑陵高校
札幌平岸高校
枝幸高校
苦前商業高校



耐震工事終了のお知らせ

平成30年6月から実施しました本学1号棟・第2体育館の耐震改修工事が終了しました。約1年の間学生、学内外関係者及び大学施設利用者の皆様にはご不便をおかけしましたが、地震活動が頻繁に発生する日本においては、大学を利用される皆様の安全のために耐震工事は必須の事業でした。おかげさまで無事に工事を終えることが出来ましたことを御礼申し上げます。



卒業修了年次1位として、小野寺翼さん（教育学科3年、184冊）をそれ以外の年次1位として表彰しました。学生の図書館資料貸出冊数は、文部科学省の学術情報基盤実態調査や朝日新聞社が毎年発行する「大学ランキング」でも調査項目となる大事な数字です。図書館資料を利用して学習・研究に励み、母校の評価向上にも貢献した学生たちを称えます。

 図書館は今
THE LIBRARY NOW

平成30年4月から平成31年2月4日講義最終日までの約10ヶ月間、図書館の資料を借出利用した学生の上位100位までを発表し、図書館入口掲示板に掲示しました。このうち380冊利用して1位となった佐々木朋奏さん（心理カウンセリング学科4年）を

卒業修了年次1位として、小野寺翼さん（教育学科3年、184冊）をそれ以外の

年次1位として表彰しました。

順位	冊数	氏名	所属
1	380	佐々木朋奏	心理4
2	313	加納千尋	教育4
3	303	山上ももこ	心理4
4	184	小野寺翼	教育3
5	148	惣万啓太	心理4
6	147	竹原野乃子	芸術4
7	137	天野小春	健康4
8	125	湯浅琴乃	こども2
9	119	武田美里	スポーツ4
10	105	吉田有希	心理4

順位	冊数	氏名	所属
11	104	佐藤かおり	教育1
12	102	遠藤美沙子	ライフ2
13	100	中村優斗	教育4
14	97	吉野虎成	スポーツ3
15	93	成田百花	教育2
16	90	山田深雪	教育1
17	89	宇山潤	スポーツ2
18	80	寺地武士	スポーツ3
19	79	奥山寧々	教育1
20	78	山下泰功	スポーツ3

*スペースの都合上20位までを掲載します。トップ100は本学入口前掲示板に掲示しております。

図書館ホームページ <https://lib.hokusho-u.ac.jp/drupal/> 「お知らせ」に表彰関連記事



北海道ドレスメーカー学院と本学の学校法人分離について

今年度より、北海道ドレスメーカー学院（学校法人浅井学園）と北翔大学・北翔大学短期大学部（学校法人北翔大学）は学校法人が分離し、別法人となりました。昨年度までは同一学校法人（学校法人浅井学園）でしたが、これからは別法人としての学校を運営してまいります。

北海道ドレスメーカー学院は1939年に浅井淑子先生が創設した北海ドレスメーカー女学院を母体に誕生し現在に至ります。当初はわずか5坪の教室でのスタートでした。その後情熱的な校風は共感を呼び、生徒数は増加。1940年に北海道ドレスメーカー女学院と校名を改称し、太平洋戦争、第2次世界大戦など激動の時代も力強く歩んできました。

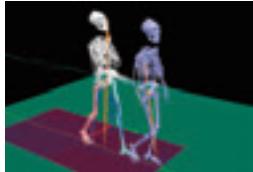
1962年に法人名を学校法人浅井学園に改組し、翌年には本学前身の北海道女子短期大学が開学。1971年には姉妹学園の学校法人北海道浅井学園を設立しました。現在の旭川調理専門学校、第2大麻こども園、大麻まんまるこども園を創立するために作られましたが、今年度より学校法人浅井学園として北海道ドレスメーカー学院と同じ法人となっております。わずか5坪の教室から始まった学校はいくつの困難を乗り越えてここまで拡大、成長してまいりました。

このような本学の母体ともいえる北海道ドレスメーカー学院は北翔大学・北翔大学短期大学部とは別法人となりましたが、皆様からのご期待に応えられるよう、互いに教育の更なる充実を図ってまいります。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



心と体の健康、そのつながりにバイオメカニクスから迫りたい。

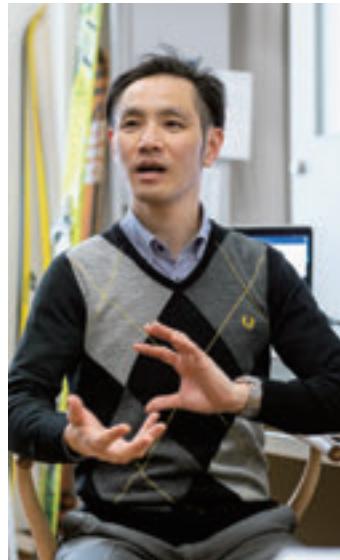
迫つていければと考えています。
分析から始め、心と動作の関係にも
見て効果を確信しながらも、その
原理を解き明かしたいとのことで、
今年度から大学院生として私の研究
室にお迎えしました。まずは動作
分析から始め、心と動作の関係にも
迫つていければと考えています。



ポストュアウォーキングのモーションキャプチャ。「前を歩いているのは私です。あまり良くない歩行の例です(笑)」と山本教授

日常生活に取り入れられる「ポストュア(=姿勢)ウォーキング」というエクササイズを考案し、国内外でレッスンを行っている方がいます。受講者の体型や姿勢が変わるもの、その歩行でも歩き方によって筋力をアップし、体を整えることができます。また、美しい姿勢や動作は、心の健康にも関与するといわれます。ですが、そのつながりはまだよくわかつていません。

私の専門はバイオメカニクスで、これは人間の動作を分析するための学問です。これまでスキージャンプをメインに研究活動をしてきました。ゼミでは学生が所属する部活動などに合わせながら、陸上競技、野球、バドミントンなどさまざまなスポーツ種目の動作分析を行ってきました。未だに、スポーツ界には根性論が根強く残っていますが、バイオメカニクスや心理学など、多様な学問の知を活かしてこそ、適正なパフォーマンスを引き出すことができるのです。根性論のとばつたりを受けるのは選手たちなんですね。学生には、身体運動の学問的な見方を身につけ、それをトレーニングに活かしてほしいと願っています。



PROFILE 1974年／山口県出身、1997年／北海道大学工学部原子工学科卒業、2004年／北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻博士課程修了、2018年／日本バイオメカニクス学会賞受賞
〔所属学会〕日本バイオメカニクス学会、日本生体医工学会など【著書】なぜ飛べるのか?～スキージャンプを科学する～(共著)など【論文】スキージャンプに関する流体力学(単著)など

今年もたくさんの中学生が生まれます！

北翔大学では、前身である北海道女子短期大学を1963年に開設以来、主に北海道内の教育現場へと多数のせんせいを送り出してきました。長い歴史が培った教員養成のノウハウと、担当教員の親身な指導によって、現在も高い合格実績を誇っています。



OPEN CAMPUS
2018-2019

オープンキャンパス開催予定！

平成31年度、第1回オープンキャンパスを5月26日(日)に開催します。今年も学生スタッフを中心と本学の魅力を伝えていきますので、ご家族や身のまわりの方で本学に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非、お声かけをお願い致します。道内各都市より無料送迎バスも運行、学生スタッフ・教職員一同、ご参加を心よりお待ちしております。



【お問い合わせ】
アドミッションセンター TEL: 011-387-3906

オープンキャンパス日程	
第1回	5月26日(日)
第2回	6月23日(日)
第3回	①8月3日(土) ②8月4日(日) ※①②の開催内容は同様です。
第4回	9月22日(日)
第5回	12月8日(日)※ミニオープンキャンパス
第6回	3月8日(日)【2020年】

北翔大学寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生が増加しており、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。

ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【募集期間】平成31年5月まで（常時受付入れさせていただきます）

【お問い合わせ】総務部総務課まで／詳細は本学ホームページをご覧ください。

<http://www.hokusho-u.ac.jp>

2019年4月～9月【共通行事予定】

2019	4月	2日(火)	在学生オリエンテーション
		3日(水)	入学式(10:00)
		4日(木)	オリエンテーション(～5日)
		8日(月)	前学期講義開始
	5月	26日(日)	オープンキャンパス第1回
	6月	23日(日)	オープンキャンパス第2回
	7月	15日(月)	<海の日>月曜日授業
	8月	3日(土)	オープンキャンパス第3回①
		4日(日)	オープンキャンパス第3回②
		5日(月)	免許状更新講習(～10日)
8月	13日(火)	夏季休業日(教職員)(～16日)	
	23日(金)	第1期編入学試験 学内公開日	
	24日(土)	第1期編入学試験(7号棟・PAL棟立入禁止)	
	1日(日)	保護者懇談会(本学会場)	
9月	5日(木)	創立記念日	
	6日(金)	指定休日(5/6の振替休日)	
	7日(土)	保護者懇談会(旭川・北見・帯広・函館)	
	17日(火)	指定休日(7/15の振替休日)	
2020	22日(日)	オープンキャンパス 第4回	
	28日(土)	大学祭	